

## ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

2010年9月吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウィンタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ委員会は11年目を迎えます。数多くのボランティアの方々をはじめ、関係組織の方々に支えていただき、活動に取り組むことが出来ました。1年目、2年目の「有障者スキー教室」から数え18回のスキー教室とバッチテスト、7回のスキー大会を実施しました。昨シーズン、スキー教室では五竜行事で総勢45名、車山行事で107名の参加がありました。チャレンジカップスキー大会では参加者がまだまだ少ないものの、一般の方と同じコースを滑走し、完走した喜びの声を、参加者ご本人やご家族の方々からいただきました。一歩ずつではありますが前進してきたと考えています。ひとえに皆様のご協力があったからこそできたこととあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ハンディキャップ委員会では、これらの活動の重要性を再認識し、スキーをはじめとするウィンタースポーツをより楽しみたいと望んでいる障がいを持つ方々と共に、一歩一歩前進していきたいと思っております。過去の実践で得られた貴重な経験を踏まえ、今年度も疑似体験を通して、委員はもちろんボランティアの方々が、障がいについての理解を深め、よりよい支援活動が可能となるようにと「ハンディキャップセミナー（障害者のサポートについて・雪上でのサポート指導実践）」を開催いたします。また車山行事では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいている皆様のご協力のもと生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。もちろんチャレンジカップスキー大会のサポートもさらに力を注いでゆきたいと考えております。

これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となってまいります。前年度は、かながわ・ゆめ国体スポーツ振興基金からの助成がなくなり、皆様からの「善意の賛助会費」と県連の予算枠を増やしていただくことで運営してきました。今年度は、スポーツ振興くじ（toto）助成金の交付申請が認められましたので、より充実した内容で運営が出来るものと考えております。引き続き「善意の賛助会費」のご協力をお願い致します。今後ともハンディキャップセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室等のボランティア参加もあわせてよろしくお願い申し上げます。

なお指導員、準指導員の方々は、研修会・クリニックと併設で行われるハンディキャップ行事へのボランティアとしてのご協力は研修会、クリニック参加として認められますので、ふるってご参加ください。

（財）神奈川県スキー連盟  
ハンディキャップ委員会  
委員長 越前谷芳隆